

令和3年度 大阪市立住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和3年度 大阪市立住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	102	67	61	2.2	6.3
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	106	69.8	48.3	51.7	45.6	67.1	4.9	5.8	8.5	2.9	1.1
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9					
9月2日	大阪府	—	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.5	3.4
2 年	学校											
	大阪市	—										
	大阪府	—										
1 年	学校											
	大阪市	—										
	大阪府	—										

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校					
	大阪市	—				

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	91	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	30.20	24.40	43.40	48.60	70.50	—	7.80	185.20	22.50	39.30
	大阪市										
	全 国										
2 年 女 子	学校	23.00	22.90	35.90	41.60	49.40	—	8.20	148.00	12.60	46.00
	大阪市										
	全 国										

令和3年度 大阪市立住吉第一中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

- ＜国語＞ 国語全体としては平均正答率が大阪市平均より6%高く、全国平均より2.4%高かった。
「書くこと」領域では、大阪府平均より9.3%高く、全国平均より6.3%高かった。
「話すこと・聞くこと」領域では大阪府平均より3.9%高く、全国平均より0.3%高かった。
「読むこと」領域では、大阪府平均より5.1%高く、全国平均より2.0%低かった。
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では大阪府平均より3.2%高く、全国平均より1.9%高かった。
- ＜数学＞ 数学全体としては、平均正答率が大阪市平均より6.0%高く、全国平均より2.9%高かった。
「数と式」領域において、大阪府平均より4.4%高く、全国平均より3.1%高かった。
「図形」領域において、大阪府平均より10.4%高く、全国平均より8.9%低かった。
「関数」領域において、大阪府平均より4.5%高く、全国平均より2.8%高かった。
「資料の活用」領域において、大阪府平均より3.2%高く、全国平均より1.1%高かった。

国語、数学の両方で、すべての領域において大阪府平均、全国平均を上回った。国語の「書くこと」領域と数学の「図形」の領域において特に高かった。平均無回答率についても圧倒的に優秀で、大阪市・全国と比べても低い結果となった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

- ＜成果＞ 全教科において本校の平均正答率は大阪市平均、大阪府平均を上回った。
5教科合計平均で大阪市より27.0%(1教科あたり5.4%)高く、大阪府平均より24.2%(1教科あたり4.84%)度高い。
- ＜課題＞ 現在の状況を維持しつつ、主体的・対話的で深い学びを充実させていくこと。

【今後に向けて】

- ・ICT機器(タブレット端末、授業用パソコン、それを投影するためのプロジェクター)を活用した授業を積極的に展開し、さらに生徒の分かりやすい授業をめざす。
- ・生徒の「主体的・対話的」な学習を充実させるよう、今後も教員の資質向上に向けた研修の充実をはかる。
- ・すべての教科において「言語活動」の充実と「リーディングスキル」の活用による授業改善を図っていく。
- ・学校元気アップ推進事業を活用した放課後学習では、1学期よりほぼ辞退することなく継続して生徒が参加しており、また、少人数ということで、きめ細かい指導ができています。その結果、学力が向上し、成果が出ているという生徒の声が多い。現在3年生を中心に行っているが、来年度は1・2年生においても充実できるように努める。